

令和6年度 第2回

平戸市総合戦略推進委員会

会 議 録

と き：令和6年10月23日（水）10：00～12：00

ところ：平戸文化センター会議室A

開催日時	令和6年10月23日(水) 10:00~12:00
開催場所	平戸文化センター会議室A
出席委員 (50音順、敬称略)	赤木明子、井芹裕貴、小楠長己、柿野朋之、木田真弓、坂元洋一郎、辻俊郎、原田和寛、福田章、松崎利恵子、松田隆也、松山芳弘、山中兵恵(13名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	田口増巳、松山恵美(2名)
事務局 (財務部企画課)	梶田財務部長、藤山企画課長、塚本参事兼政策企画班長、作江主任主事、平山会計年度任用職員
事業担当課	商工物産課、長寿介護課、農業振興課、農林整備課、水産課 観光課(欠席)
次第	
1 開会	
2 会長 あいさつ	坂元会長
3 議題 (1) 平戸市総合戦略に係る令和5年度事業の実施状況について 委員	<p>【基本目標1 雇用の促進～しごとをふやすプロジェクト～】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>4ページ地場企業就職促進事業について、この事業は平戸に活気を与えるとてもいいものだと思う。特にバスツアーに関して、高校生150名が参加しており、事業費が令和5年度決算で108万5千円6年度予算が657万3千円と増えている。今後の方針をGの継続ではなく、積極的に行っていくという意味でAの拡大にした方がいいのではないか。また、5ページ企業誘致の対策事業も、企業誘致が人口流入の要因にもなるため重要と考える。企業訪問実績が19社となっているが、この部分も増やしていく必要がある。こちらも併せて継続ではなく、拡大にするべきではないか。</p>

<p>商工物産課</p>	<p>令和6年度は、企業紹介のガイドブックをリニューアルする計画である。掲載企業は30社を予定しており、希望する企業に対しては、動画も編集して掲載する。そのため、事業費を拡大している。</p>
<p>委員</p>	<p>バスツアーの反応はどうだったのか。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>バスツアーについては、令和5年度から対象を小中学生にも拡大した。これまでは高校生だけであったが、高校生だとすでに進路が決まりつつあり、これから進路を考えていく小中学生に、企業の紹介ができるのはいい事だという企業側からの意見があった。</p>
<p>委員</p>	<p>今年度から小中学生を対象にしたバスツアーが始まったとのことだが、特に小学生だといきなり事業所見学というより、その前に“仕事”というものがどういうものなのか考えてもらうために、ハローワークで“お仕事カード”みたいなものを作り、「仕事」を考えてもらう取り組みを他所で1度行った実績がある。ハローワークでも協力させていただければありがたい。</p>
<p>委員</p>	<p>バスツアーの前段として、企業について調べる時間があればバスツアーの効果が高まるのではないかと思う。ぜひ、学校にも協力していただきたい。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>補足であるが、令和5年度の合同企業面談会は27社に参画いただいた。延べにすると73社、分野についても漁業・農業・建設業・製造業・造船業・医療・福祉・サービス業とある程度業種としてはまんべんなく地元企業には参画していただいた。生徒・学生のみなさんに知っていただく良い機会となっている。</p>
<p>委員</p>	<p>バスツアーについて、市内の小中高生が対象になっているが、将来的に対象を市外にも拡大し、外から平戸市に来て企業を見てもらえ</p>

	<p>ば、平戸市の良さを知ってもらう機会に繋がるのではないかと思います。市内で流出を止めるだけでなく、市外からの流入増に繋がる施策が必要。</p>
<p>委員</p>	<p>市外から呼び込むという意見に賛成。個人的には、小中学生は仕事についてまだ先の話と考えているのではないかと。本当に呼び込みたいというのであれば高校生に重点を置くべきではないか。1年生くらいであれば、まだ進路は定まっていないと思う。1年生から取り組みを強化し、鹿町工業高校に加えて松浦高校にも範囲を広げ、高校生を主な対象とした方がいいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>進路が定まった高校生の話を聞くと、小中学校の時にあこがれを持ったという生徒がいた。小中学校の時に見た職場が印象に残っているという声があり、小中学校に対象を広げた。小さい時に持ったイメージが実際のキャリアに繋がったケースがあるので、その部分を育てていきたいという思いが経緯としてある。</p>
<p>委員</p>	<p>長崎県立大学でバスツアーの参加者を募ることも可能である。市外に範囲を拡大するという点を将来的に検討していただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>頂いたご意見を参考にしながら、担当課と協議していく。</p>
<p>委員</p>	<p>ガイドブックに掲載する企業への声掛けはどのようにしているのか。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>まずは今まで作ったガイドブック掲載企業の継続と、関係団体に照会しながら進めていく。声掛けはこれから行う。</p>
<p>委員</p>	<p>声掛けの方法は商工会議所を通じてなのか。面談会に行けないほど日々の業務に追われている事業者など、本当に人材がほしいところへ届いているのか、どのようにマッチングできるかが問題である。今ま</p>

	<p>で掲載されたところを継続となると、偏っていると感じる。</p>
商工物産課	<p>第一は求人を出しているというのが条件になってくる。商工会議所、商工会と連携しながら考えていく。</p>
委員	<p>ハローワークに求人を出していたら、声掛けをしてもらえるということか。</p>
商工物産課	<p>今回で3回目の発行になる。最初に募集をかけた時の条件などもあるので調整しながら進めていく。</p>
委員	<p>ガイドブックの配布先はどのように想定しているのか。</p>
商工物産課	<p>これまでは冊子で作っており、各高校の2年生に年度ごとに配布と、自治会など関係団体に配布をしていた。雇用条件や企業の事業内容は変わっていくので、今後はホームページなどデジタル上での掲載をし、リアルタイムで更新ができるようにしていく。ガイドブックができたということは、市の公式 SNS などを通じて情報提供していく。</p>
委員	<p>ガイドブック発行の目的は、企業の情報を周知させることなのか、就職に繋がるようにするのが目的なのか。</p>
商工物産課	<p>就職に繋がる事が目的である。内容についても雇用条件を記載して作成をしている。毎回 1,000 冊作成し、年度ごとに配布をしており在庫がなくなった。情報は都度変わっていくのでデジタルで進めていった方が市外の方も検索できるので、今年度はデジタル化を計画している。具体的なスケジュールなどはこれからである。</p>
委員	<p>配布先が市内に限られていた。デジタル化ということであるが、有楽町のアンテナショップにも置いた方がよい。近くは福岡市からも就職をしてくる可能性はあるので、福岡市にも置くことを考えていく必</p>

<p>委員</p> <p>商工物産課</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<p>要があるのでは。市内だけでやろうとしても、限られた人数になってしまう。市内も大切だが外からの流入を考えて検討していただきたい。</p> <p>素朴な疑問だが、市内事業者の雇用はたくさん募集しているものなのか。人材不足が叫ばれているが、人を雇うにはそれなりの資本がいる。雇用についての需要と供給のバランスはどうなっているのか。</p> <p>市内では求人の方が多い。求職者側から見ると、希望職種や賃金などの条件が合っていないという状況もある。我々としては企業情報の提供と、企業と求職者とのマッチングが主な業務である。また、就労環境などの企業支援や人材育成なども行っており、人手が足りていないという現状は把握している。</p> <p>ハローワークの数字を共有させていただくと、8月の有効求人数は江迎管内において 944 件で、ほぼ半数は平戸市からの求人である。求職者に関しては 32.5%が平戸市在住の方である。</p> <p>その内、正規雇用の割合はどれくらいか。</p> <p>正規雇用の数は、手元にない。</p> <p>正規雇用の数が重要だと思う。</p>
<p>(1) 平戸市総合戦略に係る令和5年度事業の実施状況について</p> <p>委員</p>	<p>【基本目標2 産業の振興～しごとをのばすプロジェクト～】</p> <p>(事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>畜産についてであるが、先日、田平の畜産農家の取材をした。飼料の高騰や子牛のセリ価格下落で厳しい状況とのことであった。外から</p>

<p>農業振興課</p>	<p>平戸牛を食べたいと訪れても、実際は平戸牛がブランドとして定着していない。流通のしくみや肥育農家との兼ね合いがあるのだろうが、ブランド化について予算も付いているので、どのように考えているのか。</p> <p>平戸牛のブランド化が進んでいないのは確かである。理由として、平戸市を含めた県北地域は肥育よりも子牛を販売する繁殖牛の生産地帯であるということがポイントである。佐賀牛などのブランド化されている地域へ子牛を送り出すことがメインの産業となっている。平戸市内で肥育を行っているところが非常に少ないので、肉の流通数が少なくブランド化ができていない。ブランド化を考えるのであれば、肥育農家の確保が必要となってくる。その上で、観光を含めた連携も必要になってくると思う。肥育農家の育成にはかなりのコストがかかるという点で、なかなか進められていない状況である。</p>
<p>委員</p>	<p>平戸で生まれた子牛を他地域で育てて、平戸で買い戻して平戸牛として売っていると聞いたことがある。</p>
<p>農業振興課</p>	<p>畜産業界のルールとしてブランド名を名乗るときに、牛を飼った期間が一番長い産地名を名乗るというものがある。その点で、買い戻して平戸牛にするのは難しい。平戸牛として売り出すのであれば、やはり平戸市内で肥育していくのがポイントとなる。逆に流通量が少ないことを売りにする戦略もあると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>イチゴやアスパラは項目として挙がっているが、農産物のブランド化はどうなっているのか。何をブランドとして売っていくのか。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>平戸には農業・漁業含めて色々な産品がある中で、ブランドという地域の魅力と生産物ということになる。農協・漁協や直売所などで販売しているものを取りまとめながらブランド化事業として商工物産課の中では進めている。具体的には、農協・漁協など系統販売になる</p>

	<p>ため間に入る市場があり、そこに対する振興品目として集中的に支援していく仕組みになっている。産品としての全体的な流通の部分とそれぞれの分野の主力商品があるので、生産者への支援や施設整備に対しての支援など階層建てで分断している状況である。</p>
委員	<p>ブランドをどう知らしめていくかが問題である。平戸牛を食べに来てくださいと、どのように周知していくのかが大切になってくる。</p>
委員	<p>ブランド化というが、ブランドとは最終的に商標である。平戸牛のブランドと言っているが、商標を取っていないのでブランドというのは問題がある。定義をよく考えて、ブランドと言っていたきたい。現在、あごのブランド化を図っている。目的は商標である。平戸牛も地域商標を取ることを目標とした方がよい。</p>
委員	<p>具体的な動きはあるのか。</p>
農業振興課	<p>地域商標がポイントというのはそのとおりであり、肉の流通に関しては、ロットの問題がある。長崎県内では長崎和牛という商標を取って流通を推進しており、「平戸牛」の商標登録という話は進んでいない。平戸という地域の名前を入れるのは簡単ではない。管内を総括している農協や、ブランド協議会を立ち上げて商標を取るという手続きが必要となる。肉の流通を考えて、農協を含め、長崎和牛を売り出すべきだという流れである。平戸牛の銘柄を取るのは難しいが、地域にとって平戸牛というのは親しまれてきた名前なので、今後考えていきたいとは思っている。</p>
委員	<p>出島ばらいろはブランドではないのか。</p>
農業振興課	<p>商標を取っている。長崎県内の肥育農家で協議会を立ち上げてブランド化している。</p>

委員	それが、平戸でできたらよい。
委員	壱岐牛は商標登録しているのか。
農業振興課	壱岐牛は商標を取っている。壱岐は一つの市で一つの農協であり、壱岐牛を推進していきたいということで、農協が中心となって商標を取っている。
委員	地域商標は行政では取れない。アゴに関しては商工会議所と商工会で共同主催しようと考えている。
委員	長崎和牛というブランドはできているが、長崎和牛を食べに平戸に来るとはならない。難しいのかもしれないが、「平戸牛を食べに」という方が平戸に来る目的になるのではないか。長期的な難しい課題になるだろうが、平戸牛をブランドとして立ち上げてほしい。
委員	佐賀牛は農協が商標登録をしているが、佐賀和牛は民間の食肉卸業者が取っている。その点で農協は危機感を持って佐賀和牛に負けないようにと、お互いに切磋琢磨しながら販売している。その結果、ネームバリューも上がってきている。平戸牛も民間企業に商標登録してもらうのもありなのではないか。名前だけでなく、ロゴも商標登録しなければならない。
農業振興課	行政で商標は取れないので、農協か民間、もしくはブランド協議会が取ることになる。平戸も以前、サツキの花と平戸牛という図案を商標登録して使っている民間企業があった。その経緯があって、平戸牛は使えず、平戸和牛として販売していたことがあった。民間企業で協力してくれるところがあれば、佐賀の事例のようなことが可能になると思う。まずは、話し合いの場を設けることが必要かと思う。
委員	平戸牛の商標は佐世保弘乳舎が取っていたが、現在は切れているの

<p>農業振興課</p>	<p>では。使える方法はあると思う。</p> <p>佐世保弘乳舎から平戸肥育牧場へ引き継がれた経緯はあるが、現在は特に問題はない。</p>
<p>委員</p>	<p>ブランドを立ち上げるにあたって、企業に対して支援事業はないのか。</p>
<p>農林振興課</p>	<p>農業振興分野でブランド化の補助事業は取り組んでいない。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>将来的に事業者が権利を取得して利益を生み出すことになるので、行政としてはやりにくい。産品として、銘柄として色々な方に参画していただいて支援をしていくことはできるが、事業者が独占的にやっていくことに対する支援は難しい。商品開発としての支援であれば可能である。事業者の育成支援の中でやっていける。</p>
<p>委員</p>	<p>ぜひ今後、商品開発として支援していただければブランド化が進むと思うので、取り組んでいただきたい。</p> <p>16 ページに就農希望者への情報発信とあるが、就農希望者とは市内の方なのか。</p> <p>27 ページに漁業について県外から事前実地研修生を受け入れたとあるが、どうやって県外の方がこの情報を知ったのか。</p>
<p>農業振興課</p>	<p>就農希望の対象者は市内と市外両方である。就農希望者募集の冊子やホームページで情報発信を行っている。それによって興味を持った方に対して、電話やオンラインでの就農相談に対応している。</p>
<p>水産課</p>	<p>県外の方が情報をどうやって知ったかについては、全国的な漁業の就業関係団体があり、そこが主催する就業フェアが年に1～2回東京や大阪で開催される。市内の漁協が出展してその中でマッチングしたり情報を得たりしている。また、県も情報提供を行っている。その中</p>

	<p>で興味を持たれた方が市や漁協に問い合わせをして、研修を受けるきっかけになっている。</p>
<p>委員</p>	<p>市が独自でやっていることはないのか。</p>
<p>水産課</p>	<p>就業フェアで関心を持った方は漁業の経験がない IJ ターンになるが、就業してもなかなか続くかどうか分からないという点がある。受け入れる漁業者は負担を強いられるので、謝金というかたちで市は支援をしている。研修を受けた方が実際に就業した場合に、別途改めて支援を行っている。研修事業は県との共同事業である。</p>
<p>委員</p>	<p>どこかの市で漁師のプロマイド的なものを作って、漁師に関心を持ってもらう取り組みが評判になっている。そのような取り組みを参考に漁師を増やす。市外に向けてやっていけば希望者が増えるかと思う。</p> <p>農業は市内市外の方がホームページを見て就農をしたいと思って申し込むのか。</p>
<p>農業振興課</p>	<p>平戸市には北松農業高校があるので、高校生を対象に農業体験を通じて就農に関心を持ってもらう取り組みもやっている。市と県と北農で推進会議をもっており、そこで連携して情報提供を行っている。市独自のホームページだけではなく、県全体で就農希望者を募っており、市・県・農協と連携して情報発信を行っている。県は技術習得研修を行っており、農協ではトレーニングファームで技術を学ぶことができる。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば東京の人達が石垣島へ移住して、漁業を始める事例が増えてきている。有楽町のアンテナショップなど、東京近辺への情報提供を検討していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>16 ページで、令和 2 年だけ就農相談件数とホームページのアクセス</p>

<p>農業振興課</p>	<p>件数が予算もそれほどかけていないのに伸びている原因は何か。</p> <p>市の予算とは関係なく、令和 2 年に平戸での農業の特集番組が放映された影響である。</p>
<p>委員</p>	<p>29 ページの観光の振興について、先日「SHOGUN」という海外ドラマがエミー賞を取って、海外ではファンが多い。三浦按針が出てくるので、インバウンドの増加を見込んで、これを機に按針終焉の地ということでイベントや商品など押し出していく予定はないのか。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>三浦按針については、平戸市・横須賀市・伊東市・臼杵市の 4 市連携でネットワークを作り、大河ドラマへ向けての活動をしたが、なかなか壁が厚い。また、10 年近く活動してきた中で、それぞれの自治体による施策のバランスの問題があり、現在、ネットワークは解散し各自治体でやっている。平戸市では按針祭を毎年、崎方公園で続けている。</p>
<p>委員</p>	<p>NHK に対して、3 年くらい要望をしたがハードルが高い。国会議員にもお願いしたが、とにかくハードルが高いということを認識して一旦やめている。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>インバウンドに関しては、今年は鄭成功生誕 400 周年ということで事業を進めている。</p>
<p>委員</p>	<p>観光はストーリーが大切である。ハードルは高いであろうが、4 市で連携してツアーを作るなどを検討していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>農業・漁業の就職に関して、北農だけでなく県内の他の農業高校に支援内容などをアピールすれば、移住しようとする子も出てくるのでは。</p>

<p>農業振興課</p> <p>委員</p>	<p>情報発信については、色々なやり方があると思うので検討していきたい。</p> <p>農林水産部門の人手不足問題で、外国人雇用についての支援はあるのか。</p> <p>観光について、時代の流れだとは思いますが「平戸版 DMO」「アドベンチャーツーリズム」「アルベルゴ・ディフーズタウン」「ガストロノミー」等、横文字が多すぎる。わかりやすいサブタイトルを付けた方がよい。事業者にとっても旅行者にとってもわかりやすいようにしていただきたい。</p> <p>言い忘れていたが、4ページのIU ターンの方への合同企業面談会の開催とあるが、住まいのことや就職のことなど来る人達のために窓口の一本化が必要。一本化した方が、来る人が情報を得やすい。ぜひ連携して行っていただきたい。</p>
<p>農業振興課</p>	<p>外国人労働者に関しては、長崎県などが出資する田平にある株式会社エヌが、外国人労働者の派遣を行っている。少し前の数字となるが200名程度の派遣を行っているとのことである。また、県北地域では農協のいちご出荷センターで4名の雇用と、市内の個人農業者の方で2件ほど外国人を雇用していると聞いている。</p>
<p>事務局</p>	<p>観光に関して、今回観光課が出席していないので、横文字がわかりにくいというご意見は繋いで協議する。</p> <p>移住定住の窓口一本化については、平戸市の公式サイトの中に移住定住促進サイトがあり、情報は網羅している。そこにたどり着くまでの検索方法など改善する点はあると思うので、いただいたご意見を検討していく。</p>
<p>委員</p>	<p>委員が言ったのは、組織としての一本化ということではないのか。</p>
<p>委員</p>	<p>移住者にとっては仕事という面が大切になってくる。企業情報を載</p>

	<p>せた方がよい。その点で連携していただきたい。</p>
委員	<p>アルベルゴ・ディフーズタウンについて、昨年の秋にイタリアの会長が来て取材させていただいた。今年度第1号の宿泊施設が崎方のできるとのことだが、順調に進んでいるのか。</p>
事務局	<p>今年度の予算が7,200万円、宿泊施設3か所・飲食店3か所の整備を行う。遅延があると聞いていないので、ある程度進んでいると認識している。</p>
委員	<p>アルベルゴ・ディフーズタウンについて、はじめての取り組みで苦労をされていると思うが、長崎県内でははじめてなのか。</p>
事務局	<p>長崎県内ではじめてである。国内では岡山県矢掛町などにあるが、自治体としての認定は平戸だけである。</p>
委員	<p>市の補助金として大きな金額が出されると思うが、補助金を出した後のフォローの方法や期間、アピールの方法などはどのようにやっていくのか。</p>
商工物産課	<p>市としては財政的な支援を行っていく。PRは民間と取り組んでいく。施設整備をまずは行っていくが、受け入れについては地域の方々にも参画いただく。商店街・観光協会・商工会議所で協議会を作ってもらって、おもてなしを改めて進めていく体制づくりを行っていく。施設整備、地域の受け入れ、運営に対する支援など連携して行っていく流れになっている。</p>
委員	<p>補足として、国からの補助もあり事業規模としては2億円ほどかかる。平戸市としても相当の金額を出すし、事業者も1億円をかけてやる場所もあるので、失敗は許されない。市としても、失敗すれば責任を取らなければならない。国の補助金の内示が遅れており、事業内</p>

<p>委員</p>	<p>容がまだわかりにくいと思われるが、姿かたちがわかるようになれば画期的な事業になる。</p>
<p>農林整備課</p>	<p>23 ページのバイオマスエネルギーについて、観光の面でも注目されている。平戸市として、どのくらい進んでいるのか。</p> <p>平戸市として取り組んでいるのは、広葉樹の利活用である。平戸島の中にはスギやヒノキなどの針葉樹よりも広葉樹が多い。平成3年くらいまではチップ工場があったが、それ以降、伐採は行われておらず、山としても伐採期を迎えている。推進事業について、実証事業として森林組合の楢木生産施設の熱利用を行っている。2か年の実証を行っていく中で、燃油の高騰もあり1年目が540万円、2年目が680万円の利益が出ており、今後も導入を進めていくが、設備整備に多額の費用がかかる。費用対効果を実証の中で見ていく必要がある。また、今年度から林野庁補助事業の地域内エコシステムが他の施設に波及できないかと検討を進めていく。</p>
<p>委員</p>	<p>バイオマスの先進地の視察などは行ったのか。</p>
<p>農林整備課</p>	<p>発電や熱利用をしている先進地の視察を行った。課題になるのが、チップの質の問題で乾燥がどの程度必要なのかということや、設備整備の問題がある。効果が出ているので、検討を重ねて進めていきたい。今年度、チップ工場の整備を進めながら森林組合へ支援を行っていく。スマートフォン半分くらいの大きさの木質チップを燃料として想定している。</p>
<p>委員</p>	<p>意見もひとつおりましたので、事務局から何かないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員の皆様からいただいたご意見を事務局で集約して各所管へ共有を図り、次の事業展開に活かしていく。</p>

委員	以上で本日の議事を終了する。
4 開会	(梶田財務部長あいさつ)